

## 2. 農業農村整備事業の展開方向

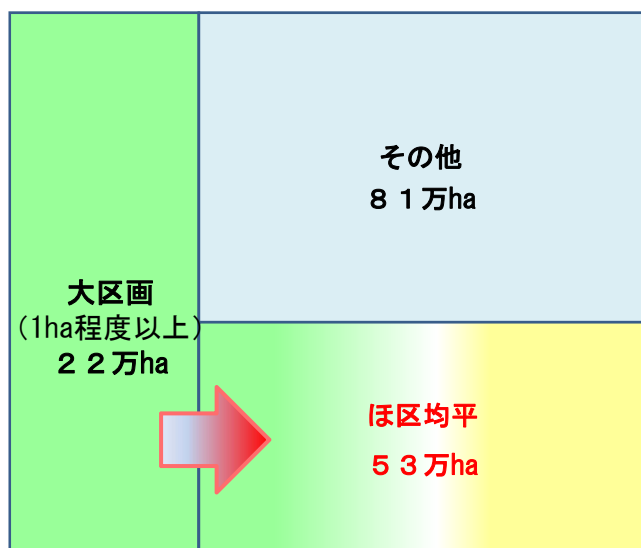
### (2) 新たな価値を生み出す社会資本の形成 ②新たな価値の付与による効果の最大化

- 農業の競争力強化や国土強靱化を実現するためには、農地・農業用水等の既存の社会資本に新たな価値を付与することを通じて、ストック効果を高めることが必要。
- その際、既存の社会資本の整備状況を分析し、最小の整備で最大の効果を生み出す視点も重要。

#### ○畦畔除去による大区画化

- ・ 田面差の殆どない隣接した整備済み水田において、畦畔を除去することにより大区画化が可能。

標準区画以上  
(30a程度以上)  
[156万 ha]

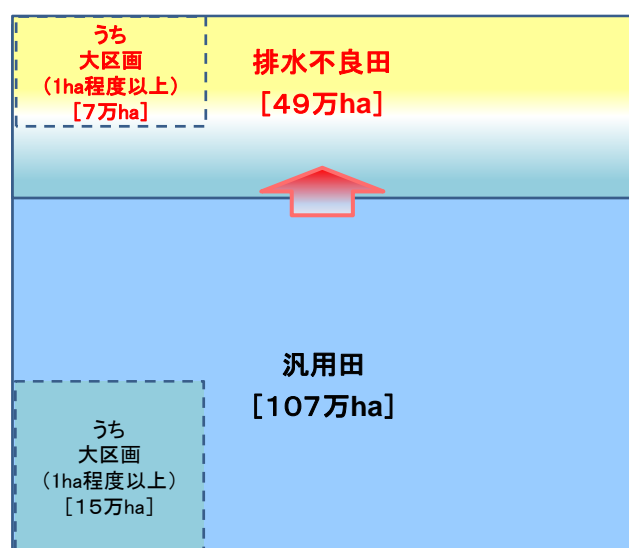


※ ほ区均平とは、ほ区内の田面差が殆どないもの  
(田面差が±5cm未満)

#### ○暗渠排水等による汎用化

- ・ 排水不良の整備済み水田において、暗渠排水等の簡易な整備により、汎用化が可能。

標準区画以上  
(30a程度以上)  
[156万 ha]

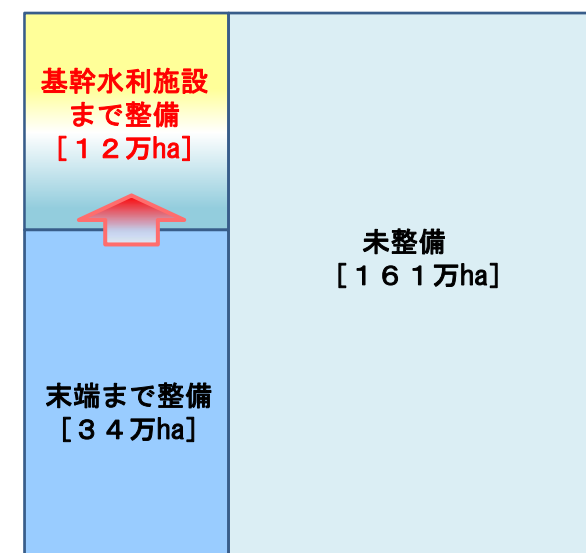


※汎用田: 標準区画(30a程度以上)整備済みかつ、排水良好(4時間排除・地下水位70cm以深)の水田

#### ○畑地の末端までのかんがい施設の整備

- ・ 各区画まで配水施設が整備されていない畑地において、末端までの配水施設の整備が可能。

畑(全畑)  
[207万ha]



※「末端まで整備」には、事業によらずに整備されている面積(6万ha)を含む。

## 2. 農業農村整備事業の展開方向

## (2) 新たな価値を生み出す社会資本の形成 ②新たな価値の付与による効果の最大化

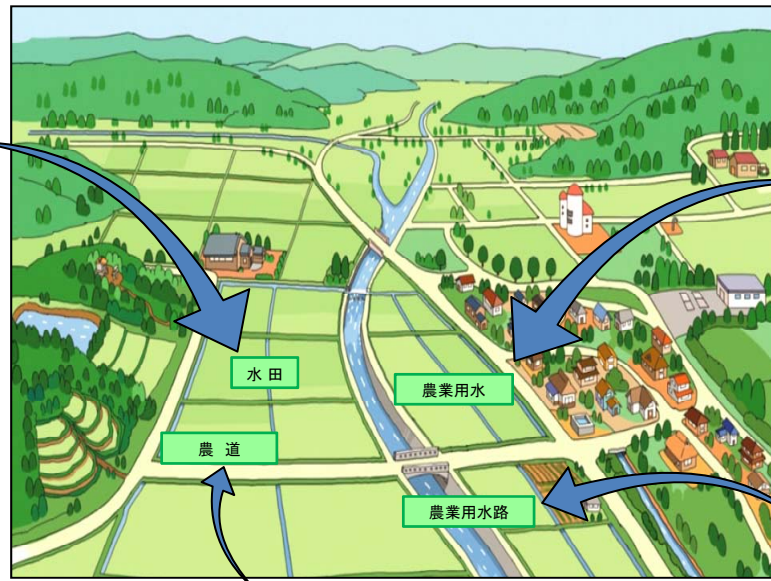
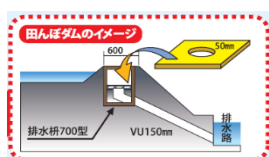
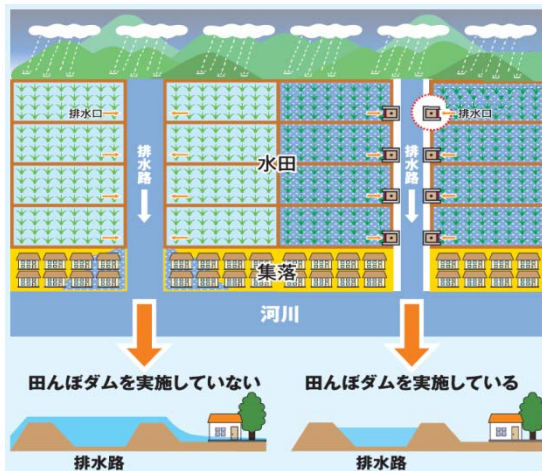
○ 平時における農業活動のみならず、有事の際においても、既存ストックの持つ価値を活かしていくことが、災害に強い国土づくり等の観点からも必要。

## 既存ストックを有効活用した効果の最大化

## 田んぼダム

## 【水田一時貯留機能の活用】

- 調整板を設置し、**水田貯留量を増加**
- 洪水調節機能の向上により、下流の市街地等の**洪水被害を軽減**



## 農道

## 【災害時の農道の多面的活用】

- 災害時に被災した国道や県道に代わり、**農道を避難路や物資輸送路等として活用**



(東日本大震災の際の岩手県陸前高田市の例)

## 農業用水

## 【多用途への利用】

- 災害などの緊急時には農業用水を**消火用水**や被災後の**生活雑用水**として活用



## 小水力発電

## 【分散型エネルギーの推進】

- 分散型エネルギーとして開発の余地が多い低落差・小流量の地点における小水力発電を推進し、**災害時の安定的な電力供給に貢献**

